

「農」との関わりはJAの生命線！

～農政転換の潮目の中で考えたいこと～

2022年4月14日 新世紀JA研究会

報告：農業ジャーナリスト・明治大学客員教授 榑田みどり

ちょっとだけ自己紹介を.....

秋田県生まれ。  
東京大学大学院地域文化研究科修了。

学生時代から30年以上農村を歩き、  
食・農専門記者として記事を書いてきました。

現在は、記者・大学教員の他に、  
以下のような仕事もするようになりました。

- 全国町村会「地域農政未来塾」主任講師
- (社)農山漁村文化協会理事
- NPO法人中山間地域フォーラム理事
- NPO法人コミュニティスクールまちデザイン理事
- 農水省の検討会などの委員あれこれ

(中山間直接支払・優良経営体・女性活躍etc.)





生産・加工・流通・販売・廃棄・  
食農教育…と畑から食卓までをテーマに  
30年以上、取材・講演で全国を歩き  
農家の方たちに育ててもらいました



全都道府県はもちろん、  
市町村も5割以上は  
お邪魔してます



海外の農村も  
10カ国ほど……

# 今日のお話

- 1 「担い手の“集中と選択”」から「多様な担い手」へと変化しつつある農業現場と農政の背景は？
- 2 「農業協同組合」は「地域協同組合」でもある！
- 3 「農」を担うJAだからこそその強みがあるはず。  
食と農を軸に地域がつながる「セーフティネット」を！



# 2015年と2020年の「望ましい農業構造の姿」を比較すると.....

前回(2015年)基本計画では、

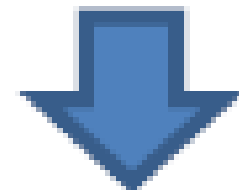
担い手への農地集積(規模拡大)加速化とコスト削減が最大の課題に

「2023年まで全農地の8割を担い手に集積」目標に向けて

- ・農地中間管理機構(農地バンク)の設立
- ・農協法・農業委員会法の変更
- ・法人化の推進
- ・農業法人要件・農地取得規制緩和
- ・企業参入促進etc.

「農業の成長産業化」戦略の中で、  
産業政策に急激なシフト。  
地域政策の「補助輪化」(小田切徳美氏)  
「地域が壊れる」との現場の危惧

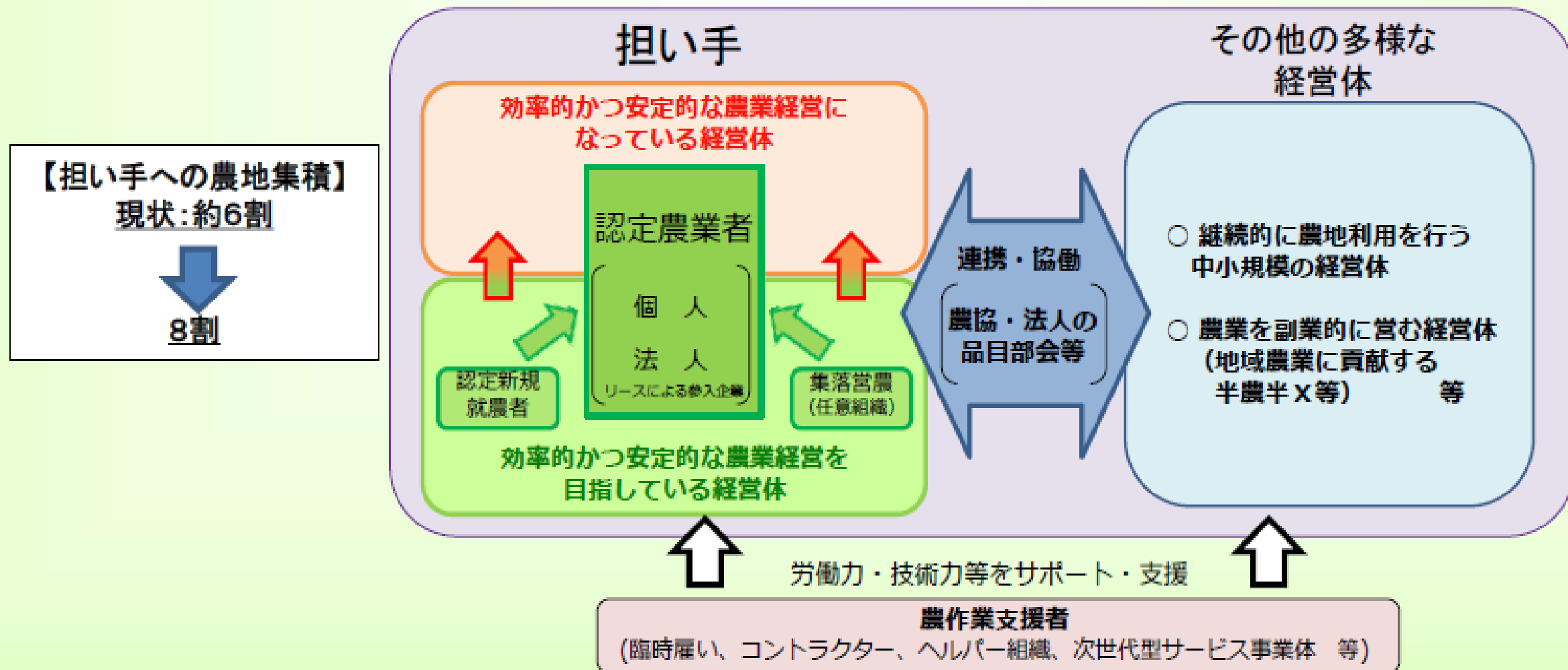
**【担い手への農地集積】**  
現状:約6割



**8割**

# ところが、昨年(2020年)決定した基本計画の 「望ましい農業構造の姿は……」(農水省「農業構造の展望」)

## 地域を支える農業経営体



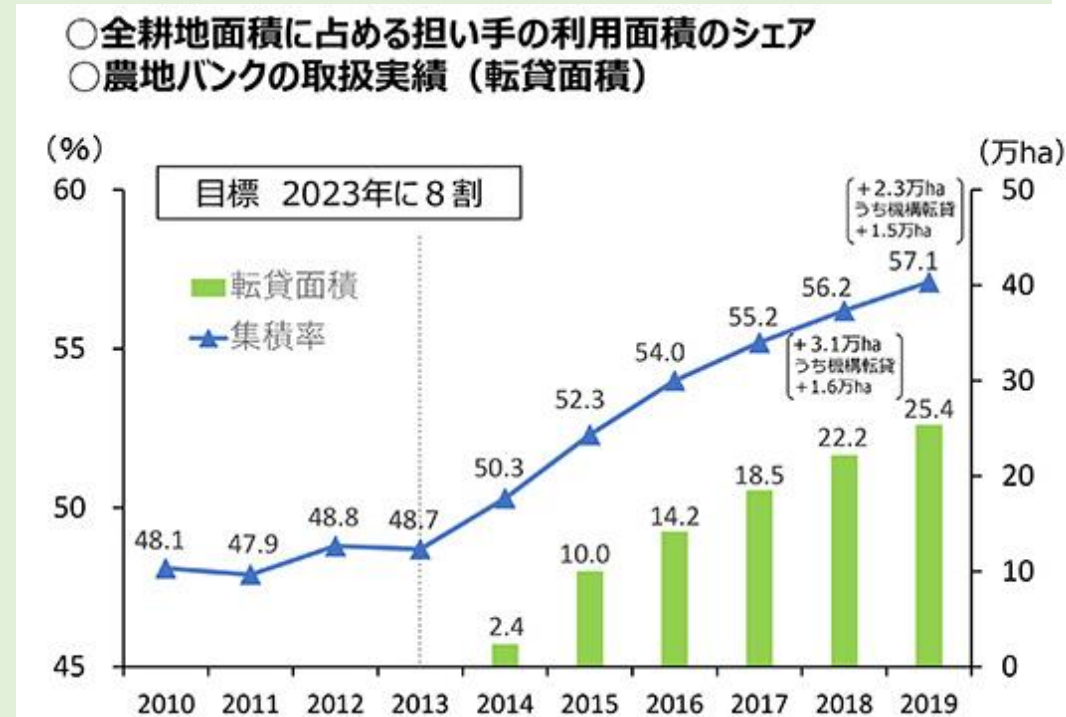
背景には、「農業の成長産業化」政策による地域の疲弊と農業生産基盤の縮小再編の進行があると私は思っています

「農業総産出額と生産農業所得は上昇」(3年間)したが、

- 生産基盤の縮小と耕作放棄地増大は止まらなかった(縮小再編?)
  - 担い手への農地集積の限界感(+担い手と土地持ち非農家の関係希薄化)
  - 担い手への農地集積・規模拡大 = 離農増加 = 離村増加
- = 「地域人口減少」(地域の衰退)の懸念

「流動化、すればするほど家が減る」

短期的な所得向上より、  
農村の長期的な安定性・持続性を図るには、  
産業政策と同時に  
「集落維持」「農村の魅力創出」などの  
地域政策も重要という認識に戻った?





# 実は、国より早く、農村現場でこの転換は始まっていました ～「多様な担い手」を自治体農政に位置づけ、「関係人口」を呼び込む動き～

地域有志の受け皿では「兼業前提」での受入れは珍しくありませんでしたが、自治体が動き出したことで面的な広がりが生まれました

- 2010年 島根県「半農半X」支援事業（Iターン者の選択肢のひとつとして）
- 2018年 長野県が「ひとり多役」型ライフスタイルでのIターン支援事業
- 2020年 JAグループ北海道中央会が「**パラレルノーカー**」提唱  
北海道石狩市が「石狩**アグリケーション**事業」に着手
- 2021年 愛知県・福岡県が「半農半X」支援に着手  
JA全農×JTBで労働力支援事業  
秋田県「半農半X」ツアー……テレワーク×農業法人で農作業
- 2022年 静岡県が「半農半X支援事業」に着手  
JA全農が「**91農業**」提唱（暮らしの中に1割農業を）  
千葉県睦沢町「**チバニアン兼業農学校**」開校

「田園回帰」の流れの中、「就農」の前に「**就村**」という考え方も登場



# JAが対話をするべきは農水省や自治体農林課だけではダメ！ (他省庁の農業・農村予算(地域政策)にも注目を！)

## ●内閣府(地方創生本部)の「地方創生関係交付金」

- 6次産業化・地域運営組織・関係人口
- 副業支援(一人多役:長野県 半農半X:島根県)

## ●総務省

- 地域経済好循環推進プロジェクト(地消地産:長野県)
- 地域おこし協力隊(新たな新規就農ルート)・地域運営組織・関係人口・
- ふるさとワーキングホリデー・移住コーディネイター
- 特定地域づくり事業協同組合制度

## ●国交省

- 小さな拠点 ・関係人口 ・2地域居住 ・地域管理構想
- 第二のふるさとづくりプロジェクト(観光庁) などなど.....

## 2 農業協同組合は地域協同組合でもある！

専業農業者の育成だけでなく、

「多様な担い手」を育てること、地域を元気にすることもJAの仕事！

(1)「パラレルノーカー」「マルチワーカー」「副業農家」etc.

(援農を基本にした“農的関係人口”)をどう呼び込むか？

(2) 営農部門職員だけでなく、信用事業担当職員にも考えて欲しい！

「食」と「農」を軸にした「地域づくり」が、

地域活性化と信用事業の顧客にもつながる

人はご飯を食べなければ生きられない以上、誰のとなりににも「農」はある！  
その接点を作ってあげることも今のJAにとって大事なことです！

# (1) 多様な「小さな農の担い手」を育てる (都市近郊の神奈川県JAはだのの場合)

ポイント1 「グラデーションで受け皿を用意」し  
「有機的につなげる」

ポイント2 10aから新規就農を可能にし、  
「小さな担い手をたくさん育てる」

(これまでの15年間で新規就農者コース修了者88人のうち、  
73人が市内で就農)

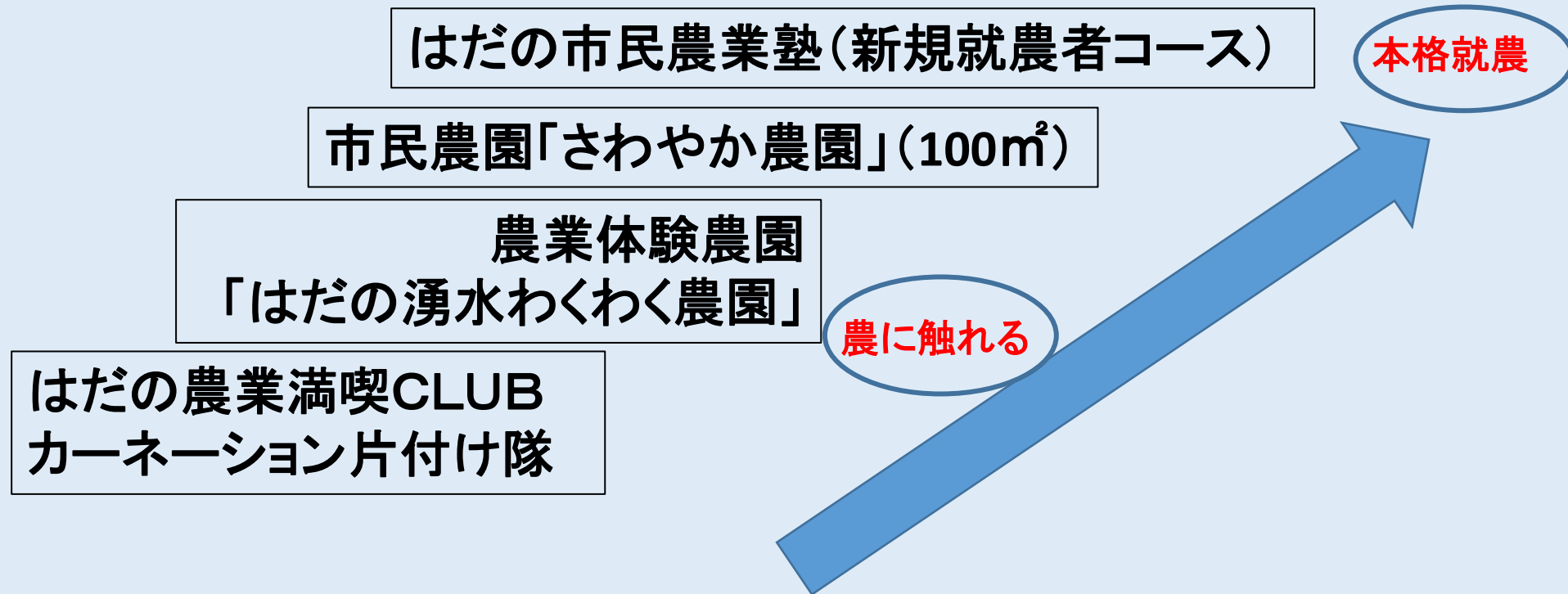
※ 核として機能しているのが、

「都市農業支援センター」とJA直売所「じばさんず」

※ もうひとつが、各支所の「営農活性化推進チーム」



# 「農」とのかかわりの階段に応じた受け皿づくり



# 地域を基盤に「食」「農」「地域づくり」に横串を刺すことが 必要な時代ではないでしょうか？



# 「食」と「農」を軸に「地域」をつなぐ JAレーク滋賀「おうみんち」の「青空フィットネスクラブ」

非農家住民と遊休地を結びつけた「青空フィットネスクラブ」  
発想は、もともと信用事業職員だった川端均さんだった！（現常務）



# 「おうみんち」が描いたJA直売所の地域での役割

食と農のハブ拠点 おうみんち

つなげる

- 地域内農商工連携・6次産業化 漁協との連携・なばなコミュニティ・プロジェクト・芋焼酎開発など
- 農業体験事業 青空フィットネスクラブ・キッズファーマーズなど
- 都市農村交流 もりやま食のまちづくりプロジェクト・ケータリングサービス・立命館大学100円朝食・コープしがファーマーチャレンジ隊(援農隊)など

地域力

- 栽培技術指導  
滋賀県「環境こだわり農産物」生産奨励
- プロ農家育成  
Myブランド農家制度など

- 農産物・農産加工品・水産品直売
- 地域食材バイキングレストラン
- 農産加工・食育活動など

つくる

食べる

守山市・商工会議所・大学・生協などと連携。

生産・加工・流通をつなぐ「もりやま食のまちづくプロジェクト」でも中心的な役割



# コロナ、ウクライナ侵攻.....グローバル化の脆さが見える時代に

世界が平和で先進国の経済成長が続き、人口も増加していた時代は、  
職能別(専門化)・国際分業という**縦割りのほうが効率的**でした。

しかし、農業に限らず国境が突如立ち塞がり、さらに地域の労働力不足と、  
専門化の弊害が顕在化する中、**職能別・産業別の境界線が溶け始めている**のを感じます。

また、「**行き過ぎた資本主義**」で広がる格差問題の中、  
**セーフティネットのある地域づくり**が必要になりつつあります。

(ロンドン、ニューヨーク、トロントなど**世界の都市部**でも  
**「アーバン・アグリカルチャー」「コミュニティ・ファーム」**  
が増えていますが、**背後に「格差問題」**があります。

「地域」を基盤に従来の縦割り組織が手をつなぐ上で、  
食を担う協同組合にできる役割は大きいと思います。



とくに「社会の底が抜けた」(貧困・孤立)今だからこそ、  
「作り手」と「食べ手」、都市と農村の連携を考えたい！

反貧困ネットワーク事務局長の瀬戸大作さんは……

「今の貧困問題は、コロナ以前から貧困状態にあったひとが可視化しただけ」

「貧困の世代間連鎖は、10年前(リーマンショック時)より深刻化。

親も貧困下にあり、家族がセーフティネットとして機能していない」

「自己責任社会の意識が一般化。生活保護を申請するくらいなら、

死んだ方がましという若者も多い」

「今回痛感したのは、農村現場と都市での僕たちの活動が分断していること」

(米余りと米価下落で揺れる農村 × 米を買えない貧困層が増える都市)

農村で暮らしていけるグランドデザインを創るなど、

都市の貧困と農村の連携でできることがあるのでは？



頑張ってください！

ご静聴ありがとうございました